第８回　赤川水系河川整備学識者懇談会
議事概要

平成 28 年 11 月 16 日(水)　13:30～16:00
庄内産業振興センター西館 3F マリカ市民ホール

〇委員からの質問・意見
◆事務局からの回答

(1)　赤川総合水系環境整備事業の事業再評価について

〇植生については、河川水辺の国勢調査による具体的なデータとの比較により、今後の対応策を具体的に書けると思う。なお、ハリエンジュの除根の方法について教えてもらいたい。下手をすると分布域を広げる要因にもなってしまうため、工事の際には注意願いたい。他河川でも河口域の生態系の保全につながる事業を実施しており、もし可能であれば赤川でもやってみてはどうか。新たに形成された淵に、魚が産卵したという記録があれば自然再生をより強くアピールできると思う。
◆ハリエンジュの除根は、薬剤塗布や根の掘り起こし処分等を実施していた。試験方法を含め、過去にどのような方法で実施したかは後日報告させていただきたい。
〇ハリエンジュは再萌芽能力が非常に高いため、事業後の数字が固定されているわけではない。そのため、十分監視し、ハリエンジュをより減らすような試みをした方が良い。また、三川町かわまちづくりについては、設計の仕方によって、整備の内容・結果が大きく変わるため、様々な専門家の方に意見を伺い、良い水辺空間を作っていただきたい。
〇三川町としても、住民のみならず、町内外から訪れてもらえるような交流の拠点としての位置づけで整備していきたいと考えている。
〇河道掘削後も樹林化が進んでいる箇所がある。今後のモニタリング結果をどのように樹木管理に反映していくのか。また、三川町かわまちづくりは様々な地域から来ていただけるように河川関係にとらわれずＰＲしてもらいたい。
◆ハリエンジュ伐採直後と現在を比べるとやはり再繁茂している箇所があることも把握している。再繁茂している箇所と維持されている箇所の環境条件等を今後分析し、維持管理計画に反映させていきたい。
〇櫛引地区の馬渡にある桜の名所の老木化が進んでいる。後世に残せるような桜堤を作りたいと考えている。また、中流部の簗場は地域の大切な資源であり、その再生についても国とともに尽力していきたい。
◆今後調整しながら美しい桜堤を目指していきたい。簗場の再生については、個別に調整させていただく。
〇整備後の利用が大きな問題だと思う。完成までに時間があるため、パブリックコメント等を実施し、様々な意見を集めて欲しい。また、周辺市町とも連携しながら使われ方を考えるとすばらしい企画になる。最上川フォーラムに赤川も取り込んで一緒に考えて整備していったらよいと思う。
〇ハリエンジュは厄介なものと改めて感じた。気候変動を見込んだ洪水対策もお願いしたい。植生だけでなく動物など様々な要素がこれから絡んでくると思う。
〇水温といった定量的な魚類等の生息環境に関するデータ取得の継続は非常に大事であると思う。三川町かわまちづくりにおける今後の利用の方法は、行政が気づかないニーズがあると思う。持続性がある利用の仕方が大事、様々な方の利用を掘り起こす仕組みを考えるとよいと思う。
〇過年度までの協議内容がよく反映されているものと思う。
〇水制工の設置により、県のシンボルであるサクラマスの避難場所が提供されている

可能性がある。水制工設置による澪筋部分の深掘れ以外にも着目すると、他河川での整備にも役立つ知見が得られるのではないかと思う。また、三川町かわまちづくりでは、芋煮等、地域として根付いている行事を行う場所として提供していくことで、息の長い利用が続くのではないかと思う。

○魚道の整備により、魚の遡上としては連続性が確保されていると感じた。ハリエンジュの伐採により、見通しが良くなり、川に入り易くなっているので注意喚起も必要と思う。また、三川町かわまちづくりについては、情報発信により、様々な方が来て楽しんでもらえると感じた。

(2) 赤川水系河川整備計画の進捗状況について

○行政がハザードマップを作成、配布するだけでは、危険性が伝わらない。住民と一緒に作成する等の工夫が住民への防災意識の向上に繋がると思う。また、防災教育は教員の転勤もあるため、継続できる方策や展望はあるのか。

◆各地方で試行的に実施したものである。この結果を踏まえ、全国に拡大していく方向で取り組んでいく。

―以上―